

荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力

当協会では「人材確保タスクフォース」を設置し、船員教育機関等と連携しつつ優秀な日本人船員（海技者）確保のための広報活動を行っている。

今般、その一環として荒川区立第三中学校（東京都）の校内ハローワークに、講師として川崎汽船 竹内幸太郎船長と同 木下弘也二等機関士を派遣した。（写真は開始前の全体会）



荒川区立第三中学校の校内ハローワークは、自己の生き方や、今、何を努力すべきのかなどについて生徒が考えを深める機会とすることを目的に、平成13年度から開催されている。当協会には平成23年度より招請があり、今回で6回目の講師派遣となった。

今年度は10月15日（土）に開催され、航海士の他パティシエ、TVディレクター、農業など30職種にわたる講師が招かれ、全校生徒410名がそれぞれ希望の講座に分かれて参加した。

航海士の講座は3回の実施で計32名が参加し、船の大きさや社会に果たしている役割などについて船内の様子など写真も交えて説明を受けた。

海外で下船したときの逸話、珍しい食物の話題など外航船社ならではのエピソードも披露され、生徒たちは興味を示している様子だった。

生徒からは「海ではどうやって方向が分かるのですか」、「海賊に遭遇したらどうするのですか」、「なぜこの仕事を選んだのですか」といった質問があがったほか、同席した教諭からも質問が飛び一幕もあった。

人材確保タスクフォースでは、今後もこうしたキャリア教育の場などに積極的に参加し船員という職業の魅力を伝えることで、船員、海技者という進路の認知度向上に努める。

